

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																											
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																											
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																											
学校法人片柳学園		平成25年3月1日		片柳 鴻		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																											
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																										
文化・教養	芸術専門課程	スポーツトレーナー科三年制				平成25年文部科学省告示 第2号	-																										
学科の目的	スポーツ選手の障害予防・応急処置などを行う「アスレティックトレーナー」やさまざまな顧客のパフォーマンス向上や肉体改造をサポートする「パーソナルトレーナー」、そして医療分野の知識・技術を学んで運動指導に生かす「メディカルトレーナー」などを目指します。																																
認定年月日	平成26年3月31日																																
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																										
3年	昼間	1725時間	1470時間		4500時間																												
生徒総定員		生徒実員	留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																											
160人		156人	0人	4人	63人	67人																											
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定																												
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏季：7月21日～8月31日 ■冬季：12月23日～1月9日 ■学年末：3月18日～3月31日			卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																												
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡する、学習サポートをする等の指導をしている。			課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、スポーツトレーナー実習(部活サポート等)、体育祭、学園祭  ■サークル活動： 有																												
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等 (平成28年度卒業生) 学校法人埼玉医科大学 株式会社日本保育サービス 株式会社ポピンズ 社会福祉法人 菊美会 社会福祉法人 打越保育園  ■就職指導内容 仕事の学び (スポーツ業界とは?・関連する職種とは?) 履歴書作成・SPI対策・面談試験対策・実技試験対策 ■卒業生数 49 人 ■就職希望者数 42 人 ■就職者数 38 人 ■就職率 90.5 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 77.6 % ■その他 ・進学者数： 6人 ・日本工学院八王子専門学校 医療・保育カレッジ 鍼灸科 編入 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本体育協会公認</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>NSCA認定パーソナルトレーナー</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>JATI認定トレーニング指導</td> <td>③</td> <td>28人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>③</td> <td>32人</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>日本赤十字社救急法救急員</td> <td>③</td> <td>45人</td> <td>45人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他 (民間検定等)					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	日本体育協会公認	③	10人	4人	NSCA認定パーソナルトレーナー	③	12人	7人	JATI認定トレーニング指導	③	28人	25人	健康運動実践指導者	③	32人	28人	日本赤十字社救急法救急員	③	45人	45人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																														
日本体育協会公認	③	10人	4人																														
NSCA認定パーソナルトレーナー	③	12人	7人																														
JATI認定トレーニング指導	③	28人	25人																														
健康運動実践指導者	③	32人	28人																														
日本赤十字社救急法救急員	③	45人	45人																														

中途退学 の現状	<p>■中途退学者 7名 ■中退率 4.6% (休学者3名含まず)</p> <p>平成28年4月1日時点において、在学者152(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者142名(平成29年3月31日卒業者をを含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 家庭の都合</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。</p>
経済的支援 制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： (有)・無</p> <p>・片柳学園入学金免除制度・片柳学園創立70周年記念奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度 ・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生・IT資格特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象・非給付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： (有)・無</p> <p>特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日) 受審 <a href="http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/">http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</a></p>
当該学科の ホームページ URL	<a href="http://www.neec.ac.jp/department/">http://www.neec.ac.jp/department/</a>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

② 「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③ 「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

① 「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

② 「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針  
 スポーツトレーナー分野に関して、企業等へのヒアリングを実施。PDCAサイクルに従い、実務に関する知識・技術・必須な資格等を調査しカリキュラムに反映させる。授業科目のシラバスをもとに科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また学習評価を踏まえ、授業内容・方法等について検証する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け  
 教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。  
 本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、学校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	①
齊藤 克己	株式会社湘南ベルマーレ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	③
相澤 景太	株式会社カイラックス	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 学校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	
中山 敬二	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 科長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	
杉浦 晋	日本工学院八王子専門学校 主任	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 課長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期  
 年2回（毎年 3月・9月）  
 （開催日時）  
 第1回 平成29年2月28日 13：00～15：00  
 第1回 平成29年7月19日 15：15～17：15  
 第2回 平成30年2月27日 予定

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況  
 教育全般に意見を反映。短期的・中長期的に分けて実施。①資格取得の強化を科目「AT演習」「CPT演習」「健康運動演習」を中心に強化。また実践力として「現場実習：「MFCスタッフ実習」を更に強化し、専門性と人間力向上に努めている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

スポーツトレーナーの実務に必要な各種コンディショニングの手法を、実際の企業が実施する仕事内容を踏まえて指導・理解を目的とする。公認アスレティックトレーナー資格を有する専門家による知識・技術の指導に加え、実際の指導現場を想定した社会人基礎力の助言、協力の得られる企業を選定する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業（株式会社ルートヴィガー）との打ち合わせにより、職業人としてのスポーツトレーナーに必要な技能・実習内容や評価方法を設定し目標を明確にする。スポーツトレーナーの実務に必要な各種コンディショニングの手法を、実際の企業が実施する仕事内容を踏まえて指導・理解を目的とし「予防とコンディショニング実技（30時間）」にて実施。スポーツトレーナーの必須スキルである各種コンディショニング実技に関して、施設を活用しながら実際にクライアントに実施しているノウハウを踏まえて学び、スポーツトレーナーとして必要なヒューマンスキルを含めて学習を進める。公認アスレティックトレーナーの資格を有する者による専門知識・技術の指導に加え、フィットネスチェック・フィールドテストを適宜実施し、レベル確認を行う。企業等の講師派遣による実施テスト評価に基づき教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
予防とコンディショニング2	コンディショニングの把握・管理・方法と実際について学びます。また競技特性に応じたコンディショニングや環境整備についても学びます。	株式会社ルートヴィガー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成28年2月22日 9:30-12:30@研究棟B401

スポーツ分野におけるキャリアデザイン/東急スポーツシステム株式会社 原田稔

平成28年9月20日 14:00-17:00@研究棟B401

スポーツ指導者育成の展望/日本体育協会スポーツ指導者育成部 江橋千晴

②指導力の修得・向上のための研修等

平成28年3月15日 9:30-12:30@研究棟B401

就職相談のノウハウ/株式会社ワーク・ポート 梶川 恭平

平成28年9月14日 14:00-17:00@研究棟B401

想像力強化の指導について/株式会社イツ 久保田 達也

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

ICTを活用した教育：株式会社イツ

②指導力の修得・向上のための研修等

12月～3月予定：メンターとしての教育とは/トレランスアクト株式会社

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33) 個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

社会環境が多様化している中で専門力＝教育力とは限らないので、教員の研修に注力してもらいたいのご意見から、研修体制を整え内容の精査を行う。SNSのマナーに関して、社会的にも問題になっていることから指導強化していく。また、教員の労働環境改善、メンタルケアなどサポート等の充実が必要とのことから、「ヘルスサポートセンター」等の学生および教員のサポート体制の充実を検討している。なお、今年度から教員の変形労働時間制度を導入し労働環境の改善をはかって

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	地域関連
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 企画推進室 室長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
一瀬 康剛	株式会社アトム精密 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野ハートクリニック 事務長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	医療 企業等委員
榊原 直哉	八王子市私立保育園協会 (藤井保育園副園長)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ( ) 平成29年9月2日

URL : <http://www.neec.ac.jp/announcement/23390/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成28年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/23390/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程 スポーツトレーナー科三年制) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル1	社会人になるために必要なヒューマンスキル及びビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	1・前	30	2	○			○		○		
○			ビジネススキル2		1・後	30	2	○			○		○		
		○	MOS	マイクロソフト認定Word、Excel資格取得に向けて、必要な基礎知識を学びます	1・後	30	1			○	○			○	
○			PC活用	コンピュータの仕組みから基本操作までを実習を通じて学びます。	1・前	30	1			○	○			○	
○			予防とコンディショニング1	テーピングの手法について学びます。また競技特性に応じたコンディショニングや、環境整備についても学びます。	1・前	30	1			○	○		○	○	○
○			解剖学概論	骨格、筋肉、心臓、血管、呼吸器、神経、などの構造と機能について学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
		○	運動器の解剖と機能1	上下肢、および体幹部の基礎解剖学と運動学について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
		○	運動器の解剖と機能2		1・後	30	2	○			○			○	
○			救急処置法	スポーツ現場で発生した傷害や疾病などの処置方法について学びます。	1・前	30	2	○			○		○	○	
○			予防とコンディショニング2	コンディショニングの把握・管理・方法と実際について学びます。また競技特性に応じたコンディショニングや、環境整備についても学びます。	1・前	30	1			○	○		○	○	
○			スポーツトレーナーの役割	アスレティックトレーナーとは何かを学び、コーチやスポーツドクターとの連携・組織の運営と管理などアスレティックトレーナー業務全般について学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
○			ストレンクス&コンディショニング理論1	ストレンクス&コンディショニングプログラムを作成するための基礎知識を学びます（フィットネスエクササイズと安全も含む）。	1・前	30	2	○			○		○		
○			ストレンクス&コンディショニング理論2	目的に応じた、ストレンクス&コンディショニングプログラムを作成能力やカウンセリング能力を養います。	1・後	30	2	○			○		○		
○			ストレンクス&コンディショニング実技1	準備運動、ストレッチング、補強運動、フィッネストレーニング、筋力トレーニング（マシントレーニング）、整理体操などの基本テクニックについて学びます。	1・前	30	1			○	○		○	○	
○			ストレンクス&コンディショニング実技2	マシンやフリーウエイトを使用した筋力トレーニング、サーキットトレーニング、アジリティトレーニング、などの基本テクニックについて学び	1・後	30	1			○	○		○	○	
○			予防とコンディショニング理論	コンディショニングの把握・管理・方法と実際について学びます。また競技特性に応じたコンディショニングや、環境整備についても学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ自由研究A	スポーツに関することを様々な角度から捉え、実態や動向を明確にしその意義・本質などを見極め理解を深めます。	1・前	30	1			○	○		○		
		○	スポーツ自由研究B		1・後	30	1			○	○		○		

	○	スイミングA	水泳の特性について理解し、レベル別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	30	1			○	○		○	○
	○	レクリエーションスポーツ	スポーツ指導の現場でのレクリエーションの考え方とさまざまな場面での運動方法を学びます。	1・前	30	1			○	○		○	
	○	フィンワーク実習	プールにて3点セット（マスク、フィン、スノーケル）を使用し、フィンワーク（泳ぎ方、素潜り）技術を養います。	1・前	30	1			○	○			○
	○	球技	バレーボールやバスケットボールの特性について理解し、年齢別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	30	1			○	○			○
	○	野球	野球の特性について理解し、年齢別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	30	1			○	○	○	○	○
	○	陸上	陸上、ジョギング・ウォーキングの特性について理解し、年齢別に応じた的確な指導が行える能力を養います。	1・前	30	1			○	○			○
	○	現場実習1	トレーナーがどのような役割を果たしているのか基礎的な学びと見学実習を行います。	1・前	15	0			○	○		○	
	○	現場実習2	トレーナーに必要な検査・測定と評価について学び、アスレティックリハビリテーションのプログラムを作成します。	1・後	30	1			○	○		○	
	○	キャンプインストラクター実習A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	1・前	30	1			○		○		○
	○	マリン実習A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	1・前	30	1			○		○		○
	○	初級ダイビング実習	スクーバダイビング「オープンウォーター」資格取得の為に必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	1・前	30	1			○		○		○
	○	短期海外研修A	アメリカの州立大学等において人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。	1・前	60	2			○		○		○
	○	アウトドア実習A	オートキャンプ、カヌー、トレッキング等のアウトドアライフの組立てについて実習を通じて学びます。	1・前	30	1			○		○		○
	○	メディカルトレーナー演習1	メディカルトレーナーに必要な基礎知識として、解剖学、運動生理学を学びます。	1・前	30	1		△	○	○		○	○
	○	メディカルトレーナー演習2	メディカルトレーナーに必要な全体の基礎的なスキルを身につけます。	1・後	30	1		△	○	○			○
	○	MFCスタッフ実習1	MFC（メディカルフィットネスセンター）スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	1・前	30	1			○	○		○	○
	○	MFCスタッフ実習2		1・後	30	1			○	○		○	○
	○	スポーツ医学概論	スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、アスリートの健康管理と内科的障害と対策、呼吸循環器系の働きとエネルギー供給、アンチドーピング、スポーツによる精神障害などについて学びます。	1・後	15	1	○			○		○	○
○		栄養学	スポーツと栄養、アスリートの栄養摂取と食生活について学びます。	1・後	15	1	○			○			○
	○	コーチ学	スポーツ指導者とは、指導者の心構え・視点、競技者育成プログラムの理念、指導計画のたて方、スポーツ活動と安全管理、スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任などについて学びます。	1・後	30	2	○			○			○



○		トレーニング科学1	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計画、競技力向上のためのチームマネジメント、競技スポーツとIT、体力とは、トレーニングの進め方、トレーニングの種類について学びます。	1・後	15	1	○		○		○			
○		運動生理学	スポーツ活動と体力、運動体としての身体の構造と機能について学びます。	1・後	30	2	○		○		○			
	○	アスレティック・リハビリテーション1	アスレティックリハビリテーションの考え方と運動療法の基礎について学びます。	1・後	30	2	○		○		○	○		
	○	アスレティック・リハビリテーション2	物理療法と補装具使用に関する基礎知識を学び、身体の各部位の外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラムと実践を学びます。	1・後	30	2	○		○		○	○		
	○	スタジオプログラム1	スポーツクラブでは主流のスタジオプログラム。パワーヨガ、マットピラティスなどその種類は多種多様です。スタジオプログラムの主要な運動についての知識、技術について基礎を学びます。	1・後	30	1			○	○			○	
	○	体操	体操（マット運動、鉄棒、跳び箱）の基礎技術と指導法を学びます。	1・後	30	1			○	○			○	
	○	アウトドアフィットネス	キャンパスを利用してアウトドアフィットネスについて学びます。	1・後	30	1			○	○			○	
	○	AT演習1	現場実習での経験・知識を生かしてゼミ形式で授業を行います。	1・後	60	2	△	○	○		○	○		
	○	CPT演習1	CPT受験にむけて実技を含め学習します。	1・後	30	1	△	○	○		○	○		
	○	健康運動演習1	生活習慣病予防のための運動実践について学びます。	1・後	30	1	△	○	○		○	○		
	○	現場体験実習	今まで勉強してきた事について総合的に学校内・外での実習します。	1・通	30	1			○	○	○	○	○	
	○	スノーボード実習A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1			○		○		○	
	○	スキー実習A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	1・後	30	1			○		○		○	
	○	中級ダイビング実習	スクーバダイビング「アドバンスダイバー」資格取得の為に必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	1・後	30	1			○		○		○	
	○	スポーツ外傷・障害の基礎知識1	スポーツで起こりうる外傷全般と年齢・性別によるスポーツ傷害の特徴、それに対する整形外科的メディカルチェックについて学びます。	1・通	30	2	○		○		○	○		
	○	日本赤十字社救急法A	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	1・通	30	1			○	○			○	
	○	スポーツトレーニング実習A	メディカルフィットネスセンター等を週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。	1・通	60	2			○	○		○		
	○	スポーツトレーニング実習B	メディカルフィットネスセンター等を週2回以上利用してトレーニング実践方法について学びます。	1・通	120	4			○	○		○		
	○	パーソナルフィットネス・エディケーションA	健康維持増進を目的としたスポーツ・トレーニングの手法などをドリル形式において学びます。	1・通	60	4	○		○		○			
	○	パーソナルフィットネス・エディケーションB		1・通	60	4	○		○		○			
	○	社会体育実習A	学外等において現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	1・通	60	2			○		○		○	
	○	キャリア実習	スポーツトレーナー等で就職するために、企業への実習・インターンシップを行います	1・通	15	0			○	○			○	

	○	キャリアアップ セミナーA	キネシオテーピングやストレッチングトレーナー などの短期講座を受講して資格取得を目指します。	1・ 通	15	0			○	○			○	
	○	キャリアアップ セミナーB		1・ 通	30	1			○	○			○	
	○	キャリアアップ セミナーC		1・ 通	45	1			○	○			○	
	○	キャリアアップ セミナーD		1・ 通	60	2			○	○			○	
○		ビジネススキル 3	社会人になるために必要なヒューマンスキル及び ビジネス検定合格のためのスキルを身につけま す。	2・ 前	30	2	○			○		○		
○		ビジネススキル 4		2・ 後	30	2	○			○		○		
	○	スポーツと食事	アスリートの身体組成から始まり、からだ作りやトレ ニングスケジュール、栄養管理・水分管理・サプリメント の留意点、特殊環境と栄養に関する疾病、アスリート への栄養教育について全般的に学びます。	2・ 前	30	2	○			○			○	
	○	バイオメカニク ス	トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその 実際、体力テストとその活用、スキルの獲得とその獲得 過程、スポーツバイオメカニクスの基礎を学びます。	2・ 前	30	2	○			○			○	
	○	チームビルディ ング演習	仲間が思いを一つにして一つのゴールに向かって進 んでゆける組織作りについて学びます。	2・ 前	30	1		△	○	○			○	
	○	運動処方論	メディカルチェックとしての問診、血液・尿検査、安静 時心電図、運動負荷、心エコー図等の基本、フィットネ スプログラム（子供、壮年、中年、高齢者、女性、障害 者）の基本的な方法について学びます。	2・ 前	30	2	○			○			○	
	○	体力測定法	体力測定の方法、測定結果の処理、体力評価とス ポーツプログラムについて学びます。	2・ 前	15	1	○			○			○	
	○	スポーツ経営学	スポーツ組織の運営、スポーツ事業の計画・運営・評価、地域 スポーツクラブの機能と役割、広域スポーツセンターの機能と 役割、地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり、我が 国のスポーツ振興施策について学びます。	2・ 前	15	1	○			○			○	
	○	健康教育学	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴、発育発達期に多 いケガや病気、発育発達期のプログラムなどについて学 びます。	2・ 前	15	1	○			○			○	
	○	社会体育概論	スポーツとは、文化としてのスポーツ、社会の中の スポーツ、障害者とスポーツについて学びます。	2・ 前	15	1	○			○			○	
	○	スポーツ心理学	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コー チングの心理、メンタルマネジメント、指導者のメ ンタルマネジメント、スポーツ相談の意義、スポ ーツ相談の実際、子どもたちを取り巻く問題点と運 動・スポーツの必要性などについて学びます。	2・ 前	30	2	○			○			○	
	○	トレーニング科 学2	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計 画、競技力向上のためのチームマネジメント、競技ス ポーツとIT、体力とは、トレーニングの進め方、トレ ニングの種類について学びます。	2・ 前	30	2	○			○			○	
	○	スポーツ外傷・ 障害の基礎知識 2	スポーツで起こりうる外傷全般と年齢・性別によ るスポーツ傷害の特徴、それに対する整形外科的 メディカルチェックについて学びます。	2・ 通	30	2	○			○			○	
○		ストレングス& コンディショニ ング理論3	S&C理論1・2で学んだ知識を活用しながらパー ソナルトレーナーとしての知識と総合力を養いま す。	2・ 前	30	2	○			○		○	○	
	○	スポーツ自由研 究C	スポーツに関することを様々な角度から捉え、実 態や動向を明確にしその意義・本質などを見極め 理解を深めます。	2・ 前	30	1			○	○	○	○	○	○
	○	スポーツ自由研 究D		2・ 後	30	1			○	○	○	○	○	○

	○	検査・測定と評価	アスレティックトレーナーに必要な評価・検査・測定の手法、そして、スポーツ動作の観察・分析について学びます。	2・前	60	4	○			○		○	○	
	○	エアロビック1	エアロビックダンス技能検定初級レベルの技術の修得とエアロビックダンスの特性について学びます。	2・前	30	1			○	○			○	
	○	エアロビック2	技能検定5級を目指し、技能検定員の資格取得も目指します。	2・後	30	1			○	○			○	
○		フィットネストレーナー演習	MFC等を利用してトレーニングルームの運営方法やクライアントとの接し方、法的問題について学びます。	2・前	30	1			○	○			○	○
	○	AT演習2	現場実習での経験・知識を生かしてゼミ形式で授業を行います。	2・前	60	2		△	○	○			○	○
	○	AT演習3	現場実習での経験・知識を生かして演習形式で授業を行います。	2・後	60	2		△	○	○			○	○
	○	CPT演習2	CPT受験にむけて実技を含め学習します。	2・前	30	1		△	○	○			○	○
	○	CPT演習3		2・後	30	1		△	○	○			○	○
	○	健康運動演習2	生活習慣病予防のための運動実践について学びます。	2・前	30	1		△	○	○			○	○
	○	健康運動演習3		2・後	30	1		△	○	○			○	○
○		ストレングス&コンディショニング実技3	筋力トレーニング、アジリティトレーニング・ランニングトレーニング等の応用テクニックと指導方法について学びます	2・前	30	1			○	○			○	○
	○	キャリア実習	スポーツトレーナー等で就職するために、企業への実習・インターンシップを行います	2・通	15	0			○			○		○
	○	スタジオプログラム2	スポーツクラブでは主流のスタジオプログラム。パワーヨガ、マットピラティスなどその種類は多種多様です。スタジオプログラムの主要な運動についての知識、技術について基礎を学びます。	2・前	30	1			○	○				○
	○	現場実習3	日本体育協会公認アスレティックトレーナーの規定実習を行います。	2・通	180	6			○	○		○	○	○
	○	短期海外研修B	アメリカの州立大学等において人体解剖、テーピング、コンディショニングなどの実習を体験し、最新のトレーナー教育についての理解を深めます。	2・前	60	2			○			○		○
	○	キャンプインストラクター実習B	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	2・前	30	1			○			○		○
	○	マリン実習B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	2・前	30	1			○			○		○
	○	上級ダイビング実習	スクーバダイビング「ダイブマスター」資格取得の為に必要な知識技術について、講義と海洋実習を通じて学びます。	2・前	30	1			○			○		○
	○	アウトドア実習B	オートキャンプ、カヌー、トレッキング等のアウトドアライフの組立てについて実習を通じて学びます。	2・前	30	1			○			○		○
	○	メディカルトレーナー演習3	メディカルトレーナーに必要な全体の応用的なスキルを身につけます。	2・前	30	1			○	○				○
	○	メディカルトレーナー演習4		2・後	30	1			○	○				○
	○	MFCスタッフ実習3	MFC（メディカルフィットネスセンター）スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	2・前	30	1			○	○			○	
	○	MFCスタッフ実習4		2・後	30	1			○	○			○	

	○	スポーツ心理学2	スポーツ相談の概念・目的、カウンセリングの理論と技術、スポーツ相談事業の企画と運営等について学びます。	2・後	30	2	○			○			○
	○	健康管理とスポーツ医学	感染症や特殊環境を含む、スポーツで起こりうる内科疾患を学び、年齢・性別によるその特徴と内科的メディカルチェック・ドーピングについて学びます。	2・後	30	2	○			○		○	○
	○	体力トレーニング論	フィットネスプログラム（子供、壮年、中年、高齢者、女性、障害者）の基本的な方法について学びます。	2・後	30	2	○			○			○
	○	競技者システム育成論	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計画、競技力向上のためのチームマネジメント、競技スポーツとITについて学びます。	2・後	15	1	○			○			○
	○	アスレティック・リハビリテーション3	競技特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラムについて学びます。	2・後	30	2	○			○		○	○
	○	運動処方実習	メディカルチェックとしての問診、血液・尿検査、安静時心電図、運動負荷、心エコー図等の基本、フィットネスプログラム（子供、壮年、中年、高齢者、女性、障害者）の基本的な方法について学びます。	2・後	30	1				○	○		○
	○	障害者スポーツ	障害者に対するスポーツ指導法を学びながら、(財)日本障害者スポーツ協会初級スポーツ指導員の資格取得を目指します。	2・後	30	2	○			○		○	
	○	スキー実習B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチテストを実施します。	2・後	30	1				○		○	○
	○	スノーボード実習B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	2・後	30	1				○		○	○
	○	日本赤十字社救急法B	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	2・通	30	1				○	○		○
	○	スポーツトレーニング実習C	メディカルフィットネスセンター等を週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。	2・通	60	2				○	○		○
	○	スポーツトレーニング実習D	メディカルフィットネスセンター等を週2回以上利用してトレーニング実践方法について学びます。	2・通	120	4				○	○		○
	○	パーソナルフィットネス・エディケーションC	健康維持増進を目的としたスポーツ・トレーニングの手法などをドリル形式において学びます。	2・通	60	4	○			○		○	
	○	パーソナルフィットネス・エディケーションD		2・通	60	4	○			○		○	
	○	社会体育実習B	学外等において現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	2・通	60	2				○		○	○
	○	キャリアアップセミナーE	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して資格取得を目指します。	2・通	15	0				○	○		○
	○	キャリアアップセミナーF		2・通	30	1				○	○		○
	○	キャリアアップセミナーG		2・通	45	1				○	○		○
	○	キャリアアップセミナーH		2・通	60	2				○	○		○

○		ビジネススキル5	社会人になるために必要なヒューマンスキル及びビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	3・前	30	2	○		○	○			
○		ビジネススキル6		3・後	30	2	○		○	○			
	○	メディフィット演習1	傷害や疾病についての運動療法の知識と実技を学びます。	3・前	30	1	△	○	○		○	○	
	○	メディフィット演習2	傷害や疾病についての運動療法の知識と実技を学びます。	3・後	30	1	△	○	○		○	○	
	○	AT演習4	現場実習での経験・知識を生かして演習形式で授業を行います。	3・前	90	3	△	○	○		○	○	
	○	AT演習5		3・後	90	3	△	○	○		○	○	
	○	CPT演習4	CPT受験にむけて実技を含め学習します。	3・前	30	1	△	○	○		○	○	
	○	CPT演習5		3・後	60	2	△	○	○		○	○	
	○	健康運動演習4	生活習慣病予防のための運動実践について学びます。	3・前	30	1	△	○	○		○	○	
	○	健康運動演習5		3・後	60	2	△	○	○		○	○	
	○	コアコンディショニング実習1	ストレッチポールなどを用いて、身体機能の改善・維持を目的としたエクササイズについて実習します。	3・前	30	1		○	○			○	
	○	コアコンディショニング実習2		3・後	30	1		○	○			○	
	○	コーディネーショントレーニング1	運動神経系を活性化させるコーディネーショントレーニングの基本知識や手技を学科として実技を通して学びます。	3・前	30	1		○	○			○	
	○	コーディネーショントレーニング2	コーディネーショントレーニング種目をさらに身につけ、現場で実際に指導できるスキルを身につけていきます。	3・後	30	1		○	○			○	
	○	アンチエイジングトレーニング1	食事や運動の知識に基づいて、心身ともに健康になるために必要な知識を学習します。	3・前	30	1		○	○			○	
	○	アンチエイジングトレーニング2		3・後	30	1		○	○			○	
	○	キャリア実習	スポーツトレーナー等で就職するために、企業への実習・インターンシップを行います	3・通	15	0		○		○		○	
	○	業界実習1	スポーツ業界について学外・学内において理解を深めるための実習を行います。	3・前	90	3		○	○	○		○	
	○	業界実習2		3・後	90	3		○	○	○		○	
	○	キャンプインストラクター実習C	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。	3・前	30	1		○		○		○	
	○	マリン実習C	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。	3・前	30	1		○		○		○	

	○	アウトドア実習C	アウトキャンプ、カヌー、トレッキング等のアウトドアライフの組立てについて実習を通じて学びます。	3・前	30	1			○	○	○		
	○	メディカルトレーナー演習5	メディカルトレーナーに必要な整体の実践的なスキルを身につけます。	3・前	30	1		△	○	○		○	
	○	メディカルトレーナー演習6	メディカルトレーナーに必要なアロマ、エクササイズなどのスキルを身につけます。	3・後	30	1		△	○	○		○	
	○	MFCスタッフ実習5	MFC（メディカルフィットネスセンター）スタッフとしてトレーニング指導、スポーツクラブ運営などの実務経験を積んでいきます。	3・前	30	1			○	○		○	
	○	MFCスタッフ実習6		3・後	30	1				○	○		○
	○	スキー実習C	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチテストを実施します。	3・後	30	1			○		○	○	
	○	スノーボード実習C	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。	3・後	30	1			○		○	○	
	○	日本赤十字社救急法C	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。	3・通	30	1			○	○		○	
	○	スポーツトレーニング実習E	メディカルフィットネスセンター等を週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。	3・通	60	2			○	○		○	
	○	スポーツトレーニング実習F	メディカルフィットネスセンター等を週2回以上利用してトレーニング実践方法について学びます。	3・通	120	4			○	○		○	
	○	パーソナルフィットネス・エデュケーションE	健康維持増進を目的としたスポーツ・トレーニングの手法などをドリル形式において学びます。	3・通	60	4	○			○		○	
	○	パーソナルフィットネス・エデュケーションF		3・通	60	4	○				○	○	
	○	社会体育実習C	学外等において現場の実践的な経験を積み、指導者としての資質を高めます。	3・通	60	2			○		○	○	
	○	キャリアアップセミナーI	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して資格取得を目指します。	3・通	15	0			○	○		○	
	○	キャリアアップセミナーJ		3・通	30	1				○	○		○
	○	キャリアアップセミナーK		3・通	45	1				○	○		○
	○	キャリアアップセミナーL		3・通	60	2				○	○		○
合計					160	科目	5970 単位時間(244単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目690時間(40単位)、選択科目1710時間(58単位)合計2,400時間(98単位)取得すること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。